

参考資料3

コミュニティビジネス勉強会資料

- 第1回 コミュニティビジネス勉強会
(平成27年10月14日9:00~12:00)
- 第2回 コミュニティビジネス勉強会
(平成27年12月11日13:30~17:00)

第 1 回
コミュニティビジネス勉強会
資料

いいな3村広域連携勉強会の開催

(1) 開催概要

【体験交流プログラム】

- 日 時：10月13日（火）13:30～17:00
- 場 所：伊平屋村 前泊港ターミナル 2F 多目的ホール
- 実施事項：体験交流プログラムの品質向上にかかる勉強会
- 参加対象：3村における体験交流プログラムの提供関係者 [行政(農政、観光)、観光協会]
体験交流プログラムの実践に係わる関係者
- 実施目的：体験交流プログラムのモニターツアーの実施に向けたプログラムの磨き上げや
リスク対策に関して、講師によるアドバイスに基づいた議論を実施し、品質向上を図る。
- 講 師：株式会社近畿日本ツーリスト インバウンド事業部次長 福波淳氏

【コミュニティ・ビジネス】

- 日 時：10月14日（水）9:00～12:00
- 場 所：伊平屋村 前泊港ターミナル 2F 多目的ホール
- 実施事項：コミュニティ・ビジネスの商品開発にかかる勉強会
- 参加対象：3村におけるコミュニティ・ビジネスの商品開発・提供関係者
[行政(農政、観光)、観光協会]
- 実施目的：過年度検討した地域ブランドコンセプトを振り返りながら、コミュニティ・ビ
ジネスの商品の付加価値化や開発手順に関して、講師によるアドバイスに基づ
き議論を深める。
- 講 師：グリシャス株式会社 地域活性化プロデューサー 石渡進一氏

食品流通業界に20年従事し、地域活性化・商品開発アドバイザーとして、消費者目線でのニーズを踏まえた「食」商品開発に、全国各地で取り組んだ実績を有する。地域素材を活用したレシピの開発から生産体制の構築まで幅広く対応が可能。

(2) 当日の流れ

	行程
[1日目] 10/13 (火)	(12:20 運天港発フェリー到着) 13:30～17:00 体験交流プログラム勉強会 18:00～ 懇親会(会場予定:海魚)
[2日目] 10/14 (水)	9:00～12:00 コミュニティ・ビジネス勉強会 12:00～ 昼食 (13:00 運天港行きフェリー出発)

(3) 勉強会プログラム

1) 体験交流プログラム勉強会 / 10月13日(火)開催

1. いいな3村広域連携の取組みの紹介	13:30~(5分程度)
2. 体験交流プログラムの検討	13:35~(移動・休憩を含む3時間15分)
○現場見学会 / イノー体験プログラム (2時間程度)	
○フィードバック及び商品化に向けたレクチャー (1時間程度)	
総括・閉会	16:50~(10分程度)

2) コミュニティ・ビジネス勉強会 / 10月14日(水)開催

1. いいな3村広域連携の取組みの紹介	9:00~(5分程度)
2. 商品開発に関する講師レクチャー、取組の共有	9:05~(30分)
○商品開発に必要なこと [石渡さんより]	
○これまでの取組内容の振り返り [事務局より]	
3. 商品開発に向けた検討	9:35~(2時間15分)
○商品コンセプトについて	
○具体的な商品内容の検討	
○今後の進め方	
総括・閉会	11:50~(10分程度)

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業

いいな3村広域勉強会出席者名簿
(交流体験プログラム、コミュニティ・ビジネス)

(敬称略)

番号	村	班名	役職	氏名	10月13日	10月14日	懇親会	備考
					交流体験 プログラム	コミュニティ ビジネス		
1	伊是名村	伊是名村 商工観光課	課長補佐	東江隆二	○	—	○	臨時議会 対応の為
2		いぜな島 観光協会	事務局長	上間美卓	○	○	○	
3	伊平屋村	伊平屋村 農林水産課	主事補	前里薫	○	—	○	
4		伊平屋村 総合推進室	主事	上原拓海	○	○	○	
5		伊平屋村 歴史民俗資料館		西藤優三	○	—	—	
6		伊平屋島 観光協会	主任	西銘琢也	○	○	○	
7	今帰仁村	今帰仁村 観光協会	事務局長	又吉演	○	○	○	
8	沖縄県	村づくり計画 課	主任技師	崎間賀子	○	○	○	
9		村づくり計画 課		金城雅友	○	○	○	
10	事務局	OC		小川哲平	○	○	○	
11		OC		大城美由紀	○	○	○	
12		A R J		大島重久	○	○	○	
13	講師	KNT	インバウンド 事業部次長	福波淳	○	—	○	
14		グリシャス	地域活性 プロデューサー	石渡進一	○	○	○	
参加人数					14	10	13	

商品開発に向けて

～ 考え方の整理 ～

グリシャス株式会社
石渡 進一

1. 商品づくりの考え方

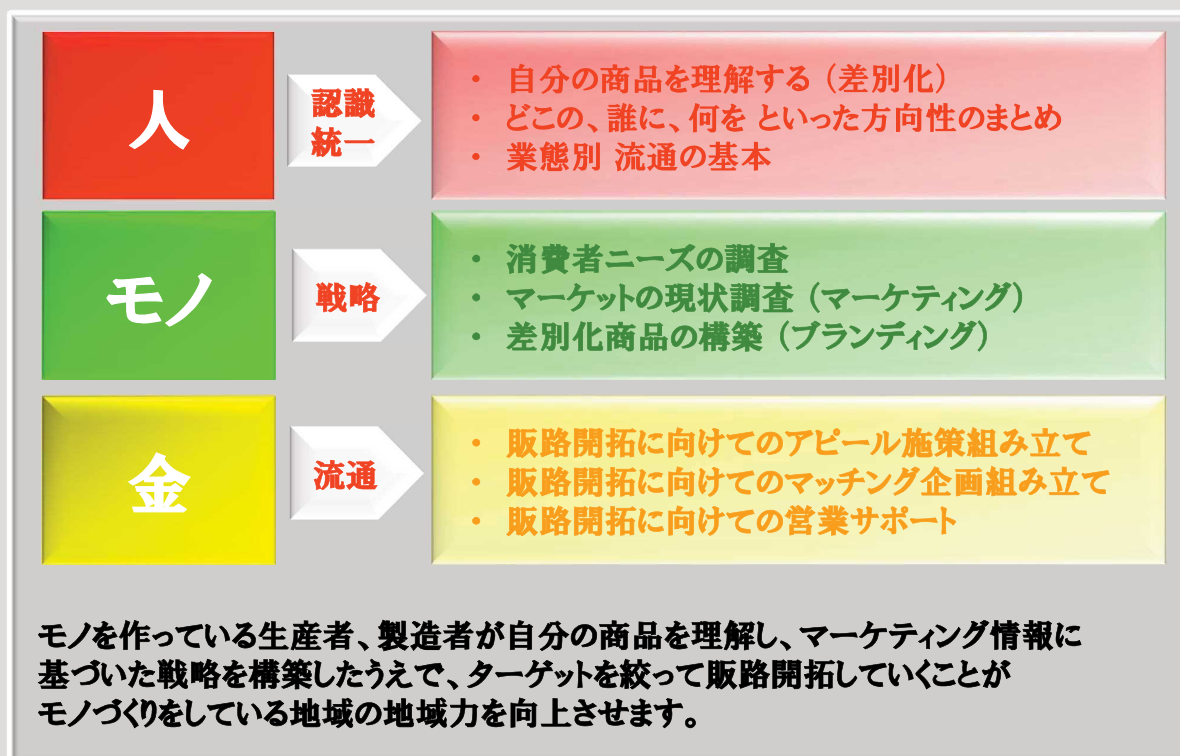
モノを売らずにストーリーや思いを売ることが考えられているか！

何を誰にどうやって売りたいのか、それはどんな魅力があるのか。
ナンバー1を目指すのか？ オンリー1を目指すのか？

パッケージデザインや商品キャラクター、キャッチコピーにばかり力を入れ、
中身が伴っていない。商品コンセプトが消費者に伝わらない商品は、
なかなかビジネスとして成立することが難しい現状があります。

商品の価値をいろいろな側面から見出し、ストーリーをつくり
差別化した商品を戦略的に流通にのせる仕組み作りを
それぞれの生産現場の状況に合わせて考えていかなければ
なりません。

2. 考え方の整理 ①



P-03

3. 考え方の整理 ②

商品開発の理由

何故この商材でなければならないのか

- ・ 食材の特長（食味）
- ・ 食材の特性（効能・環境風土）
- ・ 食材のストーリー（歴史的背景）

商品開発の方向性

どこの誰に向かって商品を作るのか

- ・ 地元で愛される商品を作るのか
- ・ 消費地で愛される商品を作るのか
- ・ 一般消費者用？ 業務用？、男性？女性？、年代は？、家族構成は？

商品開発後の販売

何をアピールして、どこで売っていくのか

- ・ アピールポイントをどうやってアピールするのか
- ・ キャッチフレーズは？
- ・ スーパーマーケット・ネット通販・カタログ販売 どこで売なのか

生産者も製造者も 立ち位置が変われば消費者です。
商品開発において、常に消費者目線を忘れずに行わなければなりません。
地域のお土産品等 何故 売れないものが世の中にたくさんあるのでしょうか。
それは消費者の需要が無いからです。

P-04

4. 全ては付加価値！

付加価値をどう付けられるかで
商品開発の成果が左右される。

- ・ **ナンバー1 より オンリー1を目標に**

ここにしかない。

ただ一つの商品づくりを目指す！

P-05

プロフィール

石渡 進一

< 経歴概要 >

- 食品流通業 及び 流通業に20年間従事する。
 - ・ スーパーマーケット向け市場外流通構築
 - ・ スーパーマーケット受発注管理、IT化
 - ・ 大手スーパーマーケット専用センター センター管理者
 - ・ スーパーマーケット、小売向け商品開発、開拓
 - ・ 飲食店向け商品開発、メニュー開発支援
 - ・ 飲食店産直企画プロデュース
- 平成23年度24年度課題解決プラットフォームTAMA専門家（主管：多摩信用金庫）
- 和歌山産業振興財団 専門家
- 平成24年度 いばらき食材推進委員
- 株式会社アイフィス 地域活性化プロデューサー
- 東京都料理組合産直事務局 プロデューサー
- 平成24年度・25年度 「地食甲子園inはまだ」企画立案、トータルプロデューサー
- グリシャス株式会社 商品開発部長・地域活性化プロデューサー
- ジャパンポテンシャル 代表
- 平成26年度 「三宅・島ごはん」普及・促進～三宅島フードツーリズム推進事業
商品開発・レシピ開発担当

P-06